

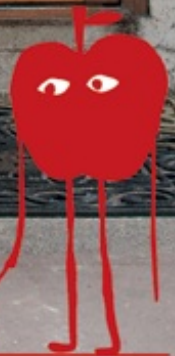
TOVO トグキ

PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 3

神武食堂



NO. 025

20140411

あおりの100家族、わたしたちのご縁から。



www.tovo2011.com



インタビュー

今号のご家族 ▶ 神 サツエ さん・祥 仁 さん・孝 子 さん・和 花 ちゃん・葵 葉 ちゃん
のどか あおば

撮影場所 ▶ 神武食堂(つがる市)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶ 孝子さん「お客さんも何人かいて、お店は営業中でした。葵葉(現在11ヶ月)は生まれてなかったんですが、和花は保育所にいました。」 ▶ 祥仁さん「私は調理をしながら常に揺れているので気が付かなかったんです(笑)でも、妻が『大きい!』って叫んで(笑)」 ▶ 孝子さん「その後、電気は消えましたが、ガスは使えたので、お客さんに料理を出していました。その時は状況もつかめなくて、お客さんも『大変だね〜』なんて言ってましたね。」 ▶ 祥仁さん「換気扇が回らなくて、店内はムンムン(笑)」 ▶ サツエさん「厨房にいたんですが、いろんなところに掴まりながら歩いていました。」 ▶ 祥仁さん「親父が去年(2013年)の2月に亡くなったんですが、その時は親父も一緒に厨房にいました。」 ▶ 孝子さん「和花は保育所で、お昼寝の時間だったんですが、帰り支度をして、皆でホールに集まって、オヤツを食べていました。」 ▶ サツエさん「私は地震にとても弱いんですよ。今回の地震以前に、大地震を2度(十勝沖地震(昭和43年)・日本海中部地震(昭和58年))経験していて、いつもココに1人だったんですよ。ドンブリも冷蔵庫もTVも全部落ちてしまって、とても怖い思いをしたのを思い出しました。今回は家族が皆揃っていたので安心しました。」

●その日の夜や次の日はお店は営業したんですか？

▶ 祥仁さん「普段通りに営業しました。電気もなく、真っ暗で不便ではありましたが、『なんでもイイから食べさせて』っていうお客さんも来店されて、仏壇の大きなロウソクやランタンで明かりを灯して、あるものを使って料理を出しました。反射式のストーブを出して、全部のヤカンを使ってお湯を沸かしましたね。」 ▶ 孝子さん「携帯電話の番号を知っている方から『配達できる?』なんて連絡も

頂いて、普通に配達もしましたね。」 ▶ 祥仁さん「次の日も人が多くて、ホント忙しかったんです。」

●その日の夜はどうされました？

▶ サツエさん「ウチは地震や災害に備えて、1人に1つずつ懐中電灯を用意してるんです。枕元にいつも置いてね。それがその時には役に立ちました。」 ▶ 祥仁さん「ウチは全部ガスを使っていて、ガスが止まらない限りは食べ物は何とかなるんです。」 ▶ 孝子さん「夜中じゅうずっと余震で家が揺れていて、家が古いので壊れたらどうしようかと心配でした(笑)」 ▶ 祥仁さん「地震当日に近所の方のお通夜があったんですよ。日程が決まっていたので、短い時間でもということになって、手伝いに行っただけです。発電機を使って足下だけ電気を点けて。その時にお寺の本堂から見渡した真っ暗な町並みは忘れられないですねー!」

●震災後、家族で話し合いなどしましたか？

▶ 祥仁さん「ここは避難場所は駅になってるんですが、それは家族がみんな知ってます。」 ▶ サツエさん「カセットコンロのガスは切らさないようにしてます。まず、食べて、生きなきゃいけないですからね。」

●和花ちゃんは学校で避難訓練とかする？

▶ 和花ちゃん「2~3ヶ月に1度やってる。先生の指示に従って皆でグラウンドに動くの。」

●10年後のイメージは？

▶ 祥仁さん「被災地、特に福島が収束していて欲しいです。子どもたちが将来どこに行っても安全に安心して暮らせるようになって欲しいです。」 ▶ 孝子さん「皆が健康で一緒に暮らせていたらいいですね。」 ▶ 和花ちゃん「警察官になりたい。」 ▶ サツエさん「親の歳まで、90歳まで生きたいので、これ以上悪くならないようにしたいですね。ボケないように(笑)」

終

定期購読のご協力をお願い致します

1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金)/1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。

編集後記

衣・食・住は人が生活する上での基礎です。震災直後、僕たちは当たり前提供され続けてきた、それらの大切さにあらためて気付かされました。今回、神武食堂さんのお話を伺いながら、どんな非常時でも、家族総出で「食」を提供し続けていこうという備えと心構えに感動し、近隣に住む者として、心強く安心感を憶えました。【小山田和正】

東日本大地震・津波被災者チャリティー

tovo トヴオ

2011年6月~2014年2月28日まで

¥2,209,033

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴオ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶神サツエさん・祥仁さん・孝子さん・和花ちゃん・葵葉ちゃん

撮影場所▶神武食堂（つがる市）

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶孝子さん「お客さんも何人かいて、お店は営業中でした。葵葉（現在11ヶ月）は生まれてなかったんですが、和花は保育所にいました。」

▶祥仁さん「私は調理をしながら常に揺れているので気が付かなかったんです（笑）でも、妻が『大きい！』って叫んで（笑）」

▶孝子さん「その後、電気は消えましたが、ガスは使えたので、お客さんに料理を出してました。その時は状況もつかめなくて、お客さんも『大変だね〜』なんて言ってましたね。」

▶祥仁さん「換気扇が回らなくて、店内はムンムン（笑）」

▶サツエさん「厨房にいたんですが、いろんなところに掴まりながら歩いていました。」

▶祥仁さん「親父が去年（2013年）の2月に亡くなったんですが、その時は親父も一緒に厨房にいました。」

▶孝子さん「和花は保育所で、お昼寝の時間だったんですが、帰り支度をして、皆でホールに集まって、オヤツを食べていました。」

▶サツエさん「私は地震にとっても弱いんですよ。今回の地震以前に、大地震を2度（十勝沖地震[昭和43年]・日本海中部地震[昭和58年]）経験していて、いつもココに1人だったんですよ。ドンプリも冷蔵庫もTVも全部落ちてしまって、とても怖い思いをしたのを思い出しました。今回は家族が皆揃っていたので安心しました。」

●その日の夜や次の日はお店は営業したんですか？

▶祥仁さん「普段通りに営業しました。電気もなく、真っ暗で不便ではありましたが、『なんでもイイから食べさせて』っていうお客さんも来店されて、仏壇の大きな口ウソクやランタンで明かりを灯して、あるものを使って料理を出しました。反射式のストーブを出して、全部のヤカンを使ってお湯を沸かしてましたね。」

▶孝子さん「携帯電話の番号を知っている方から『配達できる？』なんて連絡も頂いて、普通に配達もしましたね。」

▶祥仁さん「次の日も人が多くて、ホント忙しかったんです。」

●その日の夜はどうされました？

▶サツエさん「ウチは地震や災害に備えて、1人に1つずつ懐中電灯を用意してるんです。枕元に

いつも置いてね。それがその時には役に立ちました。」

▶祥仁さん「ウチは全部ガスを使っていて、ガスが止まらない限りは食べ物は何とかなるんです。」

▶孝子さん「夜中じゅうずっと余震で家が揺れていて、家が古いので壊れたらどうしようと心配でした（笑）」

▶祥仁さん「地震当日に近所の方のお通夜があったんですよ。日程が決まっていたので、短い時間でもということになって、手伝いに行ったんです。発電機を使って足下だけ電気を点けて。その時にお寺の本堂から見渡した真っ暗な町並みは忘れられないですねー！」

●震災後、家族で話し合いなどしましたか？

▶祥仁さん「ここは避難場所は駅になってるんですが、それは家族がみんな知ってます。」

▶サツエさん「カセットコンロのガスは切らさないようにしてます。まず、食べて、生きなきゃいけないですからね。」

●和花ちゃんは学校で避難訓練とかする？

▶和花ちゃん「2～3ヶ月に1度やってる。先生の指示に従って皆でグラウンドに動くの。」

●10年後のイメージは？

▶祥仁さん「被災地、特に福島が収束していて欲しいです。子どもたちが将来どこに行っても安全に安心して暮らせるようになっていて欲しいです。」

▶孝子さん「皆が健康で一緒に暮らせていたらいいですね。」

▶和花ちゃん「警察官になりたい。」

▶サツエさん「親の歳まで、90歳まで生きたいので、これ以上悪くならないようにしたいですね。ボケないように（笑）」

【編集後記】衣・食・住は人が生活する上での基礎です。震災直後、僕たちは当たり前提供され続けてきた、それらの大切さにあらためて気付かされました。今回、神武食堂さんのお話を伺いながら、どんな非常時でも、家族総出で「食」を提供し続けていこうという備えと心構えに感動し、近隣に住む者として、心強く安心感を憶えました。【小山田和正】

【寄付総額】2011年6月～2014年2月28日まで、「¥2,209,033」を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。